

# Ene mene miste...

... was hat der Wombat in der Kiste?



人数：2～6人 年齢：6才から 時間：約15分

## セット内容 カード：30枚

表

裏



(サイン付きスタートカード2枚)

## ゲームのアイデア

ウォンバット君は熱心なコレクター。お気に入りやいっばい集めて箱に大切にしまっています。何が入っているのかな？ヒトデ、ボール、帽子……おや？何か動いているよ、なんとアヒルにカエル、ワンちゃんもいました！

カードには4種類の絵柄が描かれています。それらの個数は様々です。カードをよく見て、それぞれの絵柄を数えましょう。そして複数のカードに描かれている同じ絵柄の合計それぞれを全て足した総合計数を答えることがゲームの課題です。最初に正解したプレイヤーがご褒美にカードを1枚もらえます。一番多くのカードを集めたプレイヤーがゲームの勝者です！

1

そして今度は、そのプレイヤーが山札から新しいカードを取って、残った2枚のカードに並べて置きます。そして次のラウンドの始まりです。さっきと同じように、複数のカードに描かれた同じ絵柄を探して、全ての合計数を答えましょう。



正解を答えたプレイヤーは右上のカードを取り、山札から新しい1枚をそこに置いたところです。

5

今度は3枚のカード全てにナシが描かれています。(1+1+3=5) 真っ先に答えがわかったプレイヤーが大きな声で「5！」。

このように正解したプレイヤーはカードを1枚もらい、次のカードを山札からめくります。机の上のカードはつねに3枚でゲームを進めていきます。

## 答えられるチャンスは一回だけ。

それぞれのプレイヤーが答えられるチャンスは一回だけです。間違った数を言ってしまったプレイヤーはそのラウンドで再度答えることはできません。一回のチャンスで正解したプレイヤーだけが、ご褒美のカードを手にすることができます。

## 答えはゼロ！

珍しいケースですが、3枚のカードの中でどの2枚にも同じ絵柄がないこともあります。こんな場合の正解はゼロ。いち早くこれに気づいて「ゼロ！」と答えたプレイヤーがカードを1枚もらえます。

4

## 保護者の方々へ

このゲームでは、注意深くものを見る力と集中力が問われます。そしてゲームを楽しみながら、数をかぞえ、数の多い少ないを把握し、簡単な足算の能力も身につけることができます。ひとつのセット内容で遊べるルールは3種類。プレイヤーの年齢に応じて難易度を変えることができます。

『やさしい』で使われる数の範囲は6まで、『普通』は15、『難しい』では30に至ります。ここで紹介する基本ルールは『普通』の難易度で、小学校2年生(7歳)くらいを対象としています。6歳くらいにも遊べる『やさしい』や『難しい』難易度のルールは、最後の《バリエーション》で詳しくご紹介しています。付き添う大人の方も子どもたちの計算結果の正誤を見守るだけでなく、ゲームにも参加してください。

## ゲームの準備 (小学校2年生くらいを対象に)

裏面に黄色いサインの付いたスタートカード2枚を机の真ん中に置きます。残りのカード28枚をよく混ぜ、半分の14枚を箱の中に戻します。残りの14枚は裏面を上にして重ねて山札とし、スタートカードの近くに置きます。



山札：14枚

2

## ゲームの終了

山札が無くなったらゲーム終了。つまり誰かがご褒美にカードをもらった後、3枚目を補えない時です。さあ、みんなの手持ちカードを数えて比べましょう。一番多くのカードを集めたプレイヤーがゲームの勝者です。

## バリエーション

### ・『やさしい』難易度

30枚のカード全部をよく混ぜて、裏向きにして机の上に並べます。このルールでは、ラウンドごとに2枚のカードをめくり、それぞれに描かれた同じ絵柄を探し、合計数を答えることを課題とします。一番に正解を答えたプレイヤーは両方のカードをもらうことができます。そして新しいカードを2枚めくり、次のラウンドの開始です。

### ・『難しい』難易度

スタート時点のカード枚数を3枚にし、山札から4枚目をめくってゲームを始めます。他のルールは基本ルールと同じです。また、使うカードを14枚だけではなく、もっと増やすと所要時間を長くすることもできます。

## 遊び方

一番年下のプレイヤーから始めましょう。14枚の山札から一番上の1枚をめくり、2枚のスタートカードの近くに並べます。



最初のプレイヤーが山札からカードを1枚めくり、右上のスタートカードの左隣に置きました。

3枚のカードにはいろいろな絵柄が、それぞれ1～3個描かれています。そして複数のカードに描かれている同じ絵柄を探しましょう。しかもその絵柄は一種類とは限りません。よく見てそれらの数を全部足して、答えが分かったら大きな声でその数を言いましょう。



上の2枚には合計5個のバナナと左上と下には合計2個のナシが描かれています。

最初に全ての数を足し算(5+2=7)できたプレイヤーが、大きな声で「7！」と答えました。

最初に正解を答えたプレイヤーは、3枚のカードからご褒美に1枚もらい裏面を上にして、自分の手元に置きます。

**注意：**ご褒美にもうカードは今回山札から加えたカード以外の2枚から、好きな方を選ぶこととします。

3

## ウォンバット

僕たちウォンバットは、オーストラリアが故郷。ちょっとクマに似ている僕らのことを言い表したオーストラリア先住民の言葉から、この名前が付いたんだ。成長すると、体長1.2m、体重40kgくらいの大きさになるんだよ。爪が鋭いのが特徴で、この爪で地面を掘って地下に作った穴に住んでいるんだ。大きな巣になると、その長さは20mくらい、地下3.5mくらいの深さに及ぶんだ。実は僕たちも、みんなと同じ哺乳動物の仲間。だけどもメスのお腹には袋があって、赤ちゃんはこの中でお母さんのおっぱいを飲んで育つんだ。袋は後ろ足の間にあって、その入り口は体の後ろ側。ウォンバットの子は、そこから顔を出すことができるんだけど、袋の穴が体の後ろ側にあるおかげで、お母さんが新しい穴を掘り始めても顔に砂がつかないんだ。袋の中で成長するのは6ヶ月くらい。そしてそれからもう1年ほどお母さんと一緒に暮らしたら、いよいよ独り立ちさ。昼間はずっと穴の中で寝て過ごし、目を覚ますのは外が薄暗くなってから。活発に餌探しをするのは夜だけど、獲物を捕まえて食べるんじゃなくて、植物を餌にしているんだ。つまり僕ら、草食動物ってわけ。



輸入販売元：株式会社ブラザー・ヨルダン社

〒631-0012 奈良市中山町1512-1 www.brjordan.com

